

めざす児童のすがた

- やさしく・・思いやりをもって、人とかかわる子
○人の気持ちや考え・立場が理解できる心の豊かな子
・規範意識を向上させ、物事にけじめを持ち、ルールを守り協力できる社会性のある子
・感性を豊かに働かせ、命あるもの、美しいもの、崇高なものや行為に対して素直に感動する子
かしこく・・進んで学ぶ子
○学ぶことの楽しさや意義を理解し、主体的に学ぶ子
・人やもの、こととかかわり、自分の考えを形成し表現できる子
・自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する子
たくましく・・健康に関心を持ち、心と体を鍛える子
○自らの健康を考えよりよい生活習慣を身につける子
・自ら進んで心身を鍛え、健康な体の子
・安全に対する意識を持ち判断できる子

めざす教職員のすがた

- 子どもを認め、讃め、励まし、勇気づけ、ねぎらい、子どもの可能性を伸ばす適切な指導を図り、子どもたちに自己肯定感や自尊感情、自己有用感を高めることができるように努める教職員。
○互いに個性や特性を發揮しあい、日々の授業改善や指導力向上等の研鑽に励み、資質能力を高めるために学び続ける教職員。
○早期の報告・連絡・相談を心がけ、一人で悩んだり抱え込んだりせず、問題や課題等に対してチームとして取り組む教職員。

みんな そろって のびていく学校

学校教育目標

未来をたくましく生きぬく人間の育成
「笑顔いっぱいの学校」

めざす学校像 【みんな そろって のびて いく学校】

「学ぶのが楽しい、自分には良いところがある、困ったことがあれば相談して解決できる」「学校・家庭・地域との連携を高め、児童一人一人を大切にし、信頼される学校」

長・中期経営目標

【教育課程の実践と体験活動の充実】

- ・基礎基本の定着を図り、多様な子どもたちの実態や学習状況に応じてきめ細やかな指導の工夫に努め、学力の向上を目指す。
- ・個別最適な学び、協働的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を培う。そのために、ICTを活用し、情報技術の向上を図る。
- ・自然体験学習やボランティア活動を通して、生命の尊さや自然の大切さ、他者と協同することの重要性を理解する。
- ・読書活動、音楽活動、体育活動などの継続的な推進を図り、感受性や子どもの内面に根ざした道徳性を育成及び心身の健全育成を図る。

【学年・学級経営】

- ・学年主任を中心とした学年の協同・協力体制のもと、子ども一人一人を大切にし、自己肯定感や有用感、自尊感情を高めるとともに、子どものよさを、認め、讃めて伸ばす。

【教職員の研究・研修の充実】

- ・校内研究や校内研修、若手教員育成プログラム(初任研)、GIGA研の充実を図るとともに、校外の研修や研究会にも積極的に参加し、教師としての力量を高める。

【生徒指導、特別支援教育、心の教育の充実】

- ・生徒指導担当、教育相談コーディネーター、教育相談員、SCを核とした校内委員会の充実。いじめのない環境づくりといじめへの早期発見、適切な対応。

- ・発達障害への理解と合理的配慮の提供。不登校問題や問題行動への組織的な対応。

【教育環境の整備】

- ・学習の場にふさわしい教室となるよう環境整備と美化に努める。

【家庭、地域との連携、開かれた学校づくりの創造】

- ・家庭との連携を図り、基本的な生活習慣、メディア等の家庭でのルールづくり、家庭学習の習慣化を働きかける。
- ・コミュニティスクールを基盤とし、地域との連携を図り、地域の教育力を導入するとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- ・学校評価の実施とその結果を学校改善に生かすとともに学校HP等で公表し、地域の期待と信頼に応える。

【危機管理意識の向上】

- ・各教科や教育活動等で、健康・安全教育に努め、事故やけがの発生時には、適切で迅速な組織的対応を図る。
- ・自然災害時や感染症拡大時・不審者対応は迅速な判断を行い、組織的に対応する。

学校経営方針 知・徳・体の調和のとれた未来をたくましく生きぬく人間の育成

- ・共通実践をそろえる・見取る、やりきる、組織的な学校経営を進める。
- ・かかわりとつながりを大切にする教育活動の推進を図る。

重点事項

『温かい人間関係』『子どもが主役』の学級経営・学校づくりを土台に

- ①生徒指導の視点を生かした授業づくり
- ②相手意識を持った聴く力づくり

(1) 「豊かな心」の育成

- ・自分、友だち、ルールを大切に、人を思いやる心、礼儀を重んじる
- ・「あたりまえのことはあたりまえに」あいさつ・返事・はき物をそろえる・ろうか歩行・姿勢
- ・特別の教科道徳の充実…週1時間の道徳を充実させ、積極的発信、公開を行い家庭との連携を図る
- ・あいさつのできる子の育成…あいさつ運動の工夫
- ・教育相談体制の整備…教育相談室、保健室、教育相談員、SCが核となり個に応じた支援
- ・読書の推進…司書・ボランティアとの連携

(2) 「確かな学力」の定着と個に応じた指導

- ・学校研究を柱とし「学習の構え」の定着「みそのびスタイル」を基本とした学習展開により、主体的に課題を発見し、解決方法を考えたり、友だちと考えを共有したりして、主体的、対話的で深い学びを追求する。
- ・個別指導、協力指導、教科担任制、交換授業など指導法や指導体制の工夫を図る。
- ・各教科、特別活動、総合、外国語活動において言語活動を大切にした取組を図り、表現力やコミュニケーション能力の育成に努める。
- ・ICT等を効果的に活用した、個別最適な学びと協働的な学びにつながる新たな学習形態を推進する。

本年度の具体的な取組
(ゴシックは重点)

(3) 「健やかな体」体力・健康・安全教育の充実

- ・体育の授業、体育的活動を充実させ、体を動かす心地よさを味わい体力の向上を図る。
- ・健康に関する知識を身につけ、規則正しい生活習慣を心がける。
- ・健全な食生活を送る資質能力を育む。
- ・「自分の命は自分で守る」ための知識を身につけ安全行動ができる能力を育む。

(4) 保護者や地域社会との連携・協力

- ・家庭、地域と連携したあいさつができる子の育成、規則正しい生活習慣づくり、メディア等のルールづくりの推進を図る。
- ・学校便り、学年便り、学校HP等で学校教育目標や教育活動を積極的に発信する。
- ・地域人材やボランティア等の連携活用
- ・学校評価の充実と情報開示、各種会議の充実を図る。

(5) 教職員の資質向上と働き方改革の推進

- ・研究会、研修会に積極的に参加し、新たな情報を共有するとともに、学年会、校内研修、GIGA研、若手教員育成を充実させ、日常的に指導技術、教師力の向上に努める。
- ・複雑化、多様化する課題に対応する「チームとしての学校」体制を整備する
- ・学習指導要領をもとに、授業時数の考え方や時間割、カリキュラム検討を進め、本校の実情に応じたよりよい方向性を追求する
- ・継続して多忙化改善に向けた方策を考え、実践する。